

日本地図の原典となる国宝を収蔵

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第 93 号
名称 (型式等)	伊能忠敬記念館
所在地	千葉県香取市佐原イ 1722- 1
設立年	昭和 36(1961)年

選定理由

日本初の実測による日本地図「大日本沿海輿地全図(だいにほんえんかいよちぜんず)」は、伊能忠敬(延享2(1745)年～文政元(1818)年)が測量隊を統率して測量を行い制作しました。縮尺36,000分の1の大図214枚、縮尺216,000分の1の中図8枚、縮尺432,000分の1の小図3枚で成立しています。制作のために、忠敬は寛政12(1800)年に東北・北海道南部方面の第1次測量を開始し、文化13(1816)年に江戸府内の第10次測量までの日本全国の測量を行いました。文政元(1818)年、忠敬の死後、忠敬の師である高橋至時の子、高橋景保が制作を引継ぎ、3年後、1821(文政4)年に幕府に上呈されました。実測による国土の形状とその地球上の位置を図示した最初のものであり、幕末から近代にかけて日本地図の原典としての役割を果たします。この地図は「伊能図」「伊能大図」とも呼ばれています。

本地図の制作を中心的に行った伊能忠敬に関連する資料群は、代々伊能家に伝来しており、昭和32(1957)年に重要文化財に指定されます。その後資料群は、昭和36(1961)年以降数回にわたり、忠敬旧宅とともに、千葉県佐原市(現・香取市)に寄付されました。これらの資料を保存・伝承し、忠敬の業績を伝えるために、佐原市は旧宅に隣接して収蔵庫を建設、伊能忠敬記念館を開館します。平成10(1998)年には、旧宅に面した小野川の体面に新たに伊能忠敬記念館を建築・開館します。

記念館に保管されている伊能忠敬関係資料群は、平成22(2010)年、国宝・重要文化財(美術工芸品)に指定されます。指定された資料は忠敬の全国測量に関する資料のほか、孫の忠誨(ただのり)の資料も含んだ2,345点です。内訳は地図・絵図類787点(採色された伊能図の他、測量成果を図化した下図、籠絵図(そえず)、参考絵図等)、文書・記録類569点(測量日記や忠敬の測量開始時の幕府辞令などの公文書)、書状類398点(直筆の書状のほか親族、関係者からの書状)、典籍類528点(忠敬が学んだ暦学書等)、器具類63点(測量や天体観測に用いた器具類)です。伊能忠敬記念館では、これらの資料の保管・公開によって、忠敬の学問、地図制作の具体的方法のみならず、生涯の事績を多面的に伝えています。



『大図 渥美半島付近』
千葉県香取市 伊能忠敬記念館所蔵



『中図 富士山付近』
千葉県香取市
伊能忠敬記念館所蔵



『伊能忠敬像』
千葉県香取市
伊能忠敬記念館所蔵



『象限儀(中)』
千葉県香取市
伊能忠敬記念館所蔵

協力：伊能忠敬記念館

参考文献：文化庁 国宝・重要文化財(美術工芸品)HP・
千葉県 HP・伊能忠敬記念館 HP